

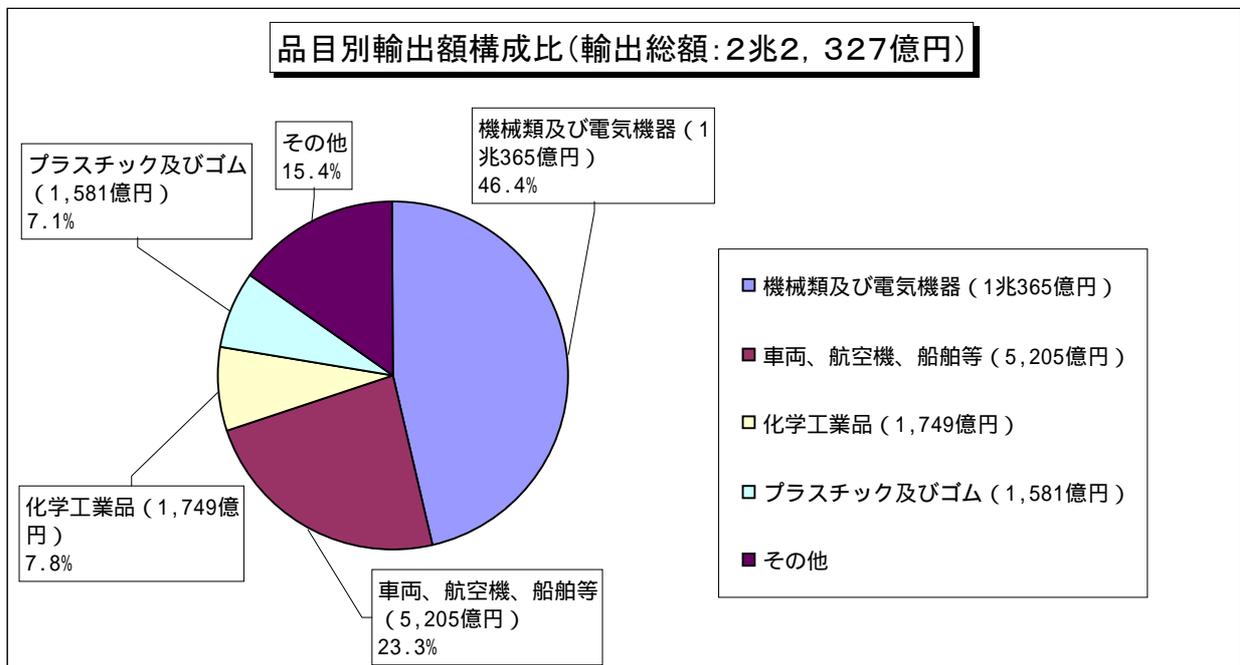
福岡県の輸出概況

(1) 概況

門司及び長崎税関資料に基づき、平成13年の福岡県内の港（門司、苅田、戸畑、博多、三池）及び福岡空港における輸出状況を見ると、次のとおりである。平成13年の本県の輸出総額は、2兆2,327億62百万円、前年比6.8%減で、前年のプラスからマイナスに転じた。

(2) 品目別輸出動向

品目別構成で見ると、「機械類及び電気機器」（1兆365億円）が最も多く輸出全体の46.4%を占めている。次いで、「車両、航空機、船舶等」が23.3%（5,205億円）、「化学工業の生産品」が7.8%（1,749億円）、「プラスチック及びゴム」が7.1%（1,581億円）と続いている。



(3) 港別輸出動向

港別の輸出額は、博多港が4,787億19百万円（前年比5.1%増）、門司港が3,060億40百万円（前年比16.3%減）、福岡空港が7,693億10百万円（前年比9.0%減）、戸畑港が2,143億53百万円（前年比10.5%減）、三池港が1,096億02百万円（前年比2.2%減）、苅田港が3,547億38百万円（前年比6.1%減）の順であった。

港別の特徴で見ると、門司港は「一般機械」、苅田港は「自動車」、戸畑港は「鉄鋼」、博多港は「一般機械及び輸送用機器」、福岡空港は「半導体電子部品」、三池港は「船舶類」の輸出ウエイトが高い。

(4) 地域別輸出動向

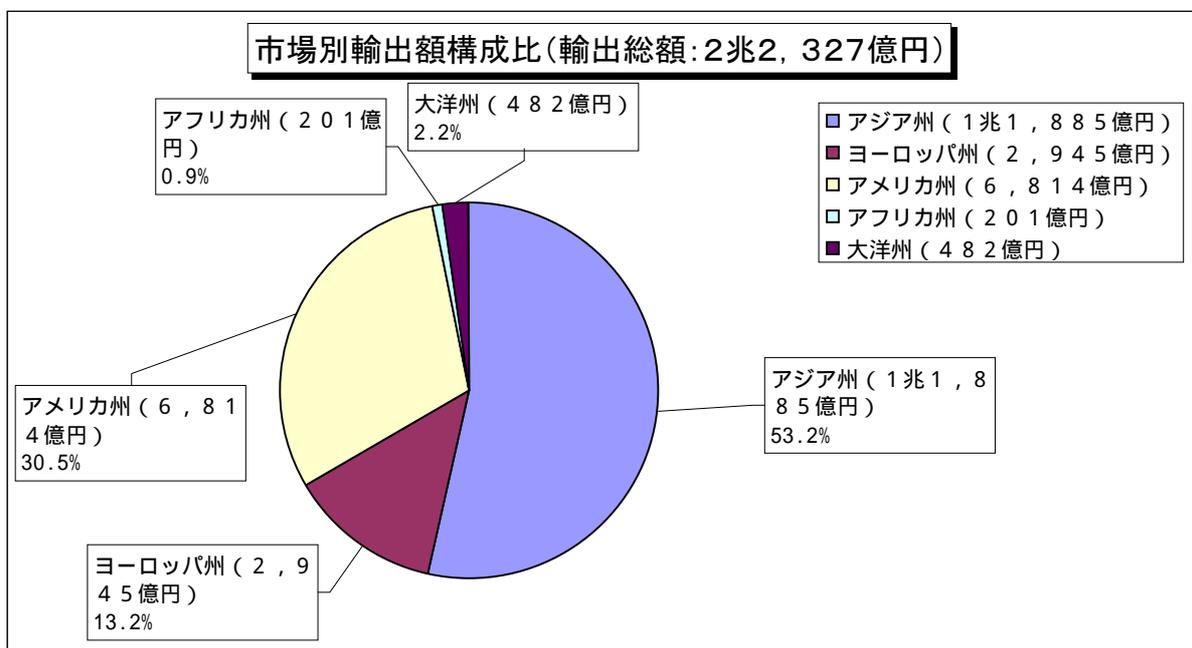
輸出先別でみると、アジア州への輸出が最も多く1兆1,885億円で、全体に占める割合は53.2%となった。主な相手先は、大韓民国(2,367億円、同10.6%)、台湾(1,862億円、同8.3%)、中華人民共和国(1,416億円、同6.3%)、シンガポール(1,286億円、同5.8%)、香港(1,042億円、同4.7%)の順となった。

ヨーロッパ州への輸出は2,945億円となり、全体に占める割合は13.2%となった。主な相手先はドイツ(569億円、同2.6%)、イギリス(454億円、同2.0%)、オランダ(420億円、同1.9%)、フランス(357億円、同1.6%)の順となった。

アメリカ州への輸出は6,814億円となり、全体に占める割合は30.5%となった。主な相手先は、アメリカ(5,649億円、同25.3%)である。

アフリカ州への輸出は201億円となり、全体に占める割合は0.9%となった。

大洋州への輸出は482億円となり、全体に占める割合は2.2%となった。主な相手先はオーストラリア(428億円、同1.9%)である。



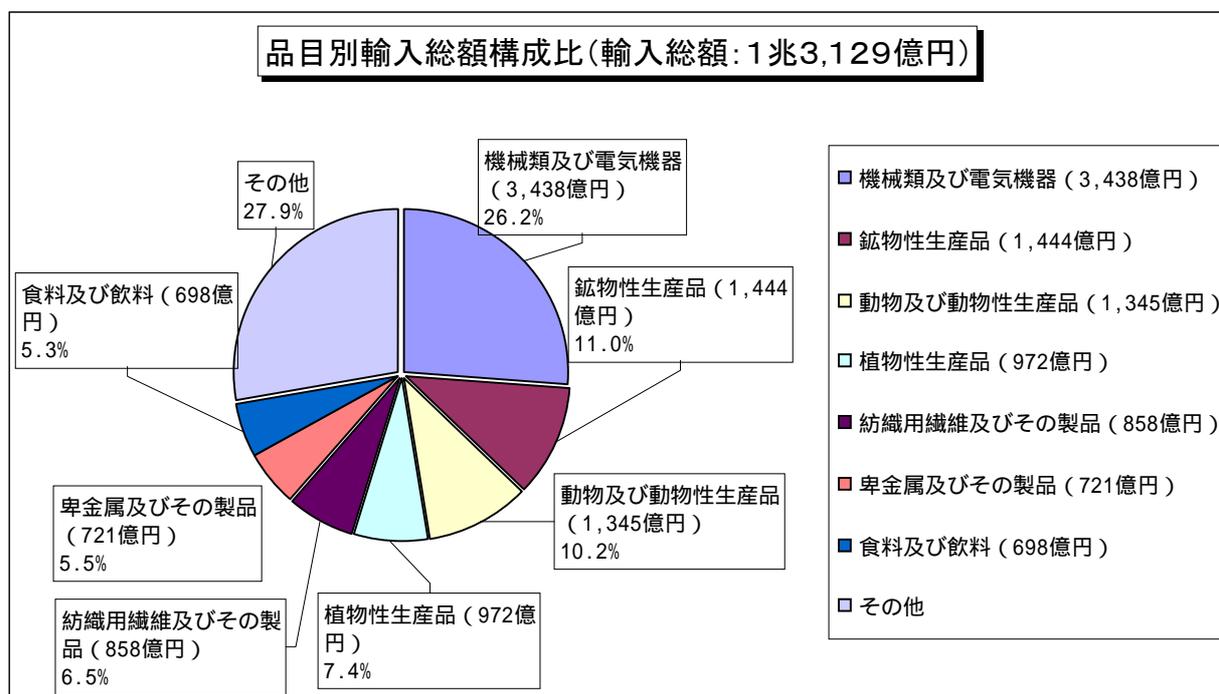
福岡県の輸入概況

(1) 概況

門司及び長崎税関資料に基づき、平成13年の福岡県内の港（門司、苅田、戸畑、博多、三池）及び福岡空港における輸入状況を見ると、次のとおりである。平成13年の本県の輸入総額は、1兆3,129億49百万円、前年比3.4%増で、3年連続のプラスとなった。

(2) 品目別輸入動向

品目別構成で見ると、「機械類及び電気機器」（3,438億円）が最も多く輸入全体の26.2%を占めている。次いで、「鉱物性生産品」が11.0%（1,444億円）、「動物及び動物性生産品」が10.2%（1,345億円）、「植物性生産品」が7.4%（972億円）と続いている。



(3) 港別輸入動向

港別の輸入額は、博多港が4,878億04百万円（前年比7.5%増）、門司港が4,063億81百万円（前年比1.4%増）、福岡空港が2,431億98百万円（前年比1.8%減）、戸畑港が1,237億49百万円（前年比5.3%増）、三池港が438億79百万円（前年比0.7%増）、苅田港が79億38百万円（前年比16.3%増）の順であった。

港別の特徴で見ると、門司港は「衣類及び電気機器」、苅田港は「石炭」、戸畑港は「液化天然ガス」、博多港は「魚介類及び同調製品」、福岡空港は「半導体電子部品」、三池港は「はき物」の輸入ウエイトが高い。

(4) 地域別輸入動向

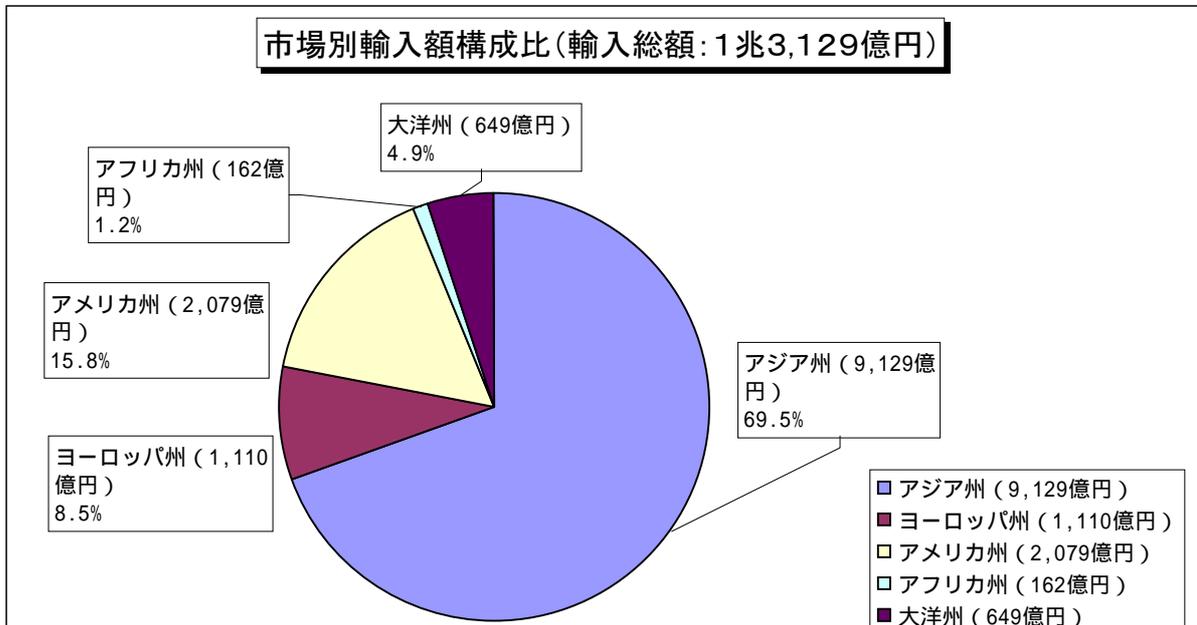
輸入先別で見ると、アジア州からの輸入は最も多く9,129億円で、全体に占める割合は69.5%となった。主な相手先は、中華人民共和国(3371億円、同25.7%)、大韓民国(1,969億円、同15.0%)、インドネシア(1,033億円、同7.9%)、タイ(719億円、同5.5%)、台湾(641億円、同4.9%)、マレーシア(516億円、同3.9%)の順となった。

ヨーロッパ州からの輸入は、1,110億円となり、全体に占める割合は8.5%となった。主な相手先は、ロシア(242億円、同1.8%)、ドイツ(160億円、同1.2%)である。

アメリカ州からの輸入は、2,079億円となり、全体に占める割合は15.8%となった。主な相手先は、アメリカ(1,631億円、同12.4%)、カナダ(254億円、同1.9%)である。

アフリカ州からの輸入は、162億円となり、全体に占める割合は1.2%となった。

大洋州からの輸入は、649億円となり、全体に占める割合は4.9%となった。主な相手先はオーストラリア(575億円、同4.4%)である。

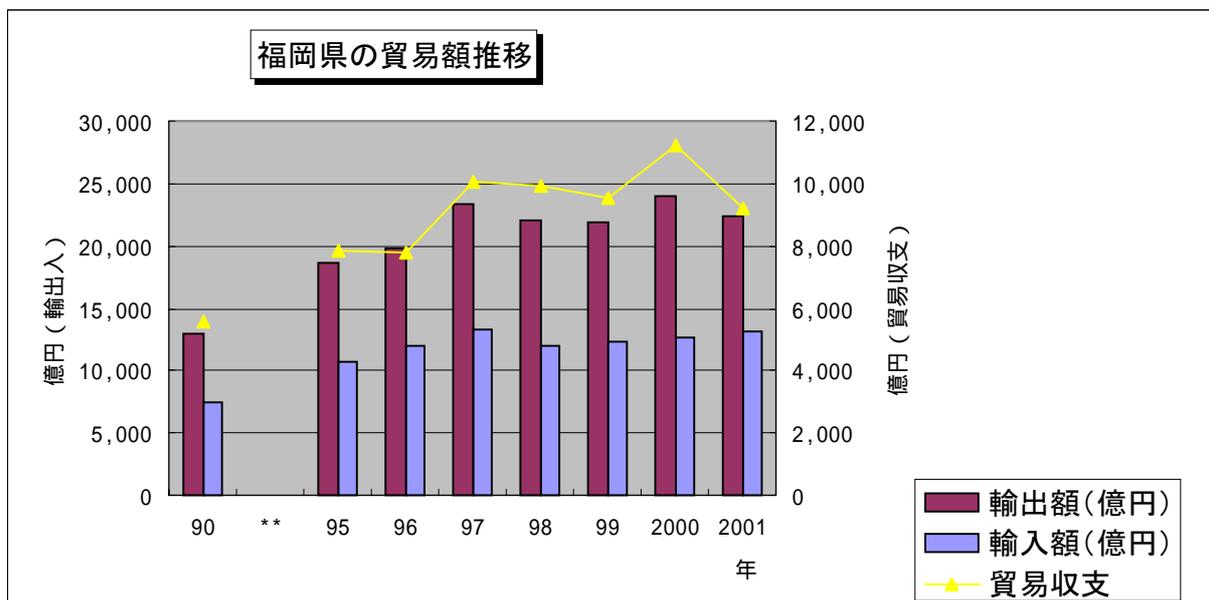


福岡県の貿易の位置付け

(1) 輸出入バランス

2001年の我が国の輸出は2年ぶりに減少に転じ、48兆9,792億円（前年比5.2%減）となった。一方、輸入は2年連続で増加し、42兆4,155億円（前年比3.6%増）となった。この結果、貿易収支は6兆5,637億円（前年比38.7%減）となり、大幅な縮小となった。これは前回の貿易収支黒字縮小局面である1996年の6兆7,379億円をも下回り、現統計で最も低い水準である。

これに対し、福岡県の貿易は、輸出が2兆2,327億円（前年比6.8%減）となり、前年のプラスからマイナスに転じた。一方、輸入は1兆3,129億円（前年比3.4%増）となり、3年連続のプラスとなった。この結果、輸出入の貿易バランスは、出超基調で推移しているものの、前年比マイナス18.3%の9,198億円であった。しかしながら、前回の貿易収支黒字縮小局面である1996年の7,811億円よりは上回っている。



(2) 地域別輸出入動向

<日本>

我が国の輸出動向を地域別で見ると、アジアへの輸出割合が、1991年には34%であったのに対して、2001年には40%まで高まっている。

輸入についてもアジアのプレゼンスが高まってきている。2001年のアジアからの輸入割合は42%となり、1991年の31%から10%以上拡大している。なかでも中国からの輸入額は7兆円に達しており、米国からの輸入額7.7兆円に迫る規模となっている。

<福岡県>

これに対し、福岡県の地域別輸出動向も、アジアへの輸出割合が高くなってきている。アジア州への輸出額は前年比3.7%減の1兆1,885億円であるが、輸出額全体に占めるアジア州の割合は前年比1.7ポイントアップの53.2%であった。国別で見た場合、輸出総額自体が、前年に比べダウンしていることもあり、全体的に減少傾向である。しかし中華人民共和国（前年比6.2%増）への輸出は増加している。

輸入に関しても、アジア州からの輸入割合が大きく、全体の69.5%を占めている。国別では、中華人民共和国、大韓民国、アメリカ、インドネシアからの輸入が伸びている。一方、台湾からの輸入は前年比34.0%減の641億円であり、大きく減少している。

(3) 品目別輸出入動向

<日本>

品目別に2001年の我が国の輸出動向を見てみると、自動車为好調な反面、IT関連材は、世界的な半導体市況下落等に見られるいわゆる「ITバブル」の崩壊もあって輸出減少となった。

1990年代半ばと比較すると、自動車や科学光学機器が輸出金額シェアを拡大している一方、半導体電子部品や事務用機器等がシェアを落としている。

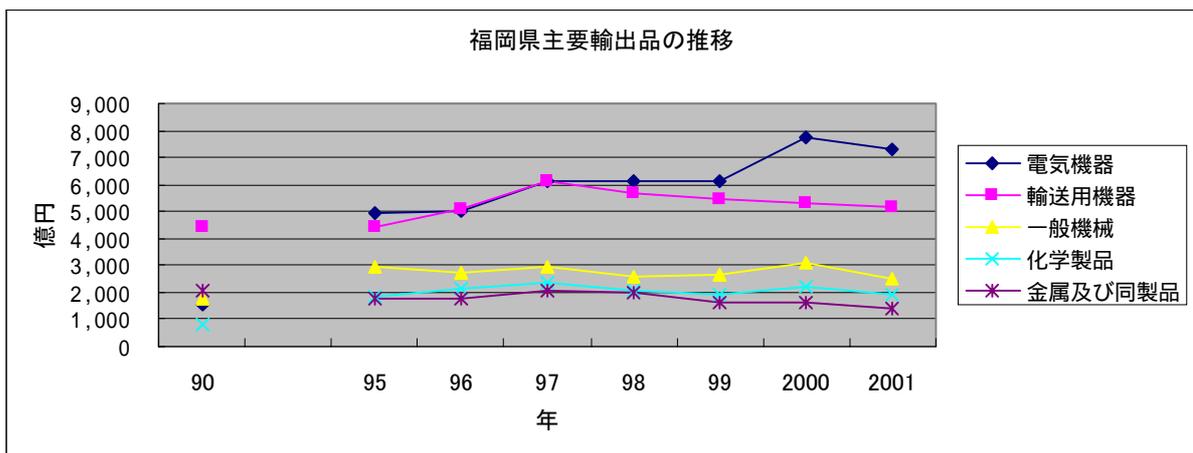
輸入動向に関しては、国内のIT需要低迷を反映して半導体電子部品や事務用機器の輸入が減少したものの、繊維製品、化学製品、食料品が増加する等、輸入総額では前年比3.6%増と2年連続の増加となり、過去最大の42兆4,155億円となった。

1990年代半ばと比較すると、アジアからの輸入を中心に事務用機器や半導体電子部品が輸入割合を拡大している。そのほか原油価格の上昇を反映して、原粗油のシェアも2001年には11.1%と1995年の8.9%から拡大した。

<福岡県>

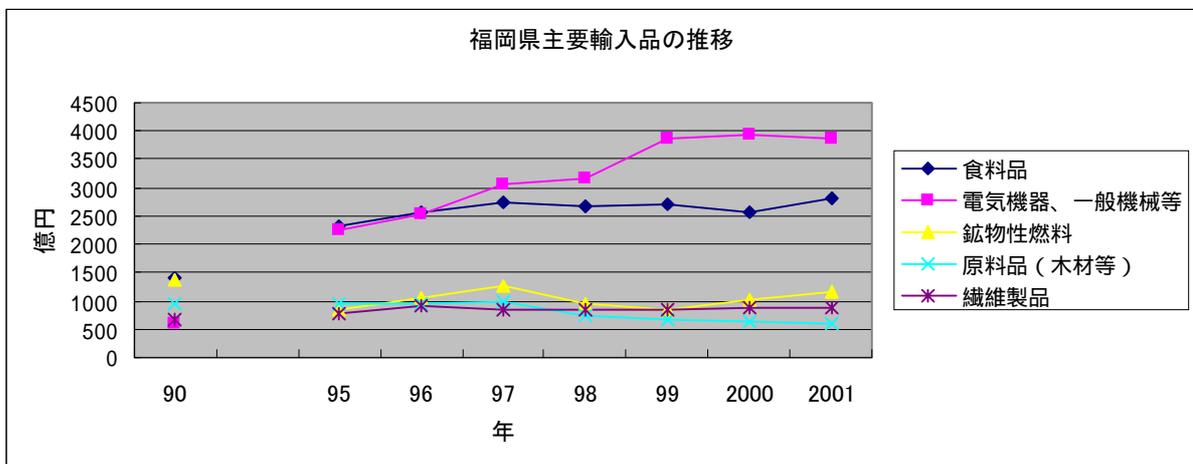
これに対し、福岡県の品目別輸出額の対前年伸び率を見ると、機械類及び電気機器、化学工業の生産品、自動車が減少し、食料及び飲料、プラスチック及びゴムが増加している。

1990年代半ばと比較すると、電気機器は激しい動きをみせているものの、増加傾向にある一方で、輸送用機器は90年代半ばと同水準に近づく減少傾向である。



品目別輸入額の対前年伸び率に関しては、輸入総額の増加を反映し、食料品をはじめほとんどの品目で前年実績を上回っている。

1990年代半ばと比較すると、電気機器・一般機械、食料品は増加傾向にある。



* 日本の動向に関する記述については「通商白書2002」(経済産業省編)より作成。